

●セドナ

Sedona

スティーブン・ライニキー

Steven Reineke (b.1970:アメリカ)

ライニキーは吹奏楽曲を中心に作曲活動を行っている。タイトルの「セドナ」は、多くの観光スポットを抱えるアメリカ・アリゾナ州の中でも、グランドキャニオンと並んで人気が高い観光地である。赤い巨岩や切り立った峡谷、深い森に囲まれており、古来よりアメリカ先住民族の聖地(パワースポット)として知られ、現在でも「癒やしの地」として多くの観光客が訪れている。全米一とも言われる景観に着想を得て書かれた爽快な曲である。2000年作曲。

●魔法にかけられて

Enchanted

鈴木英史(編曲)

Arr. Eiji Suzuki (b.1965:日本)

2007年公開のディズニー映画「魔法にかけられて」は、ディズニーアニメのお姫様が実写の世界に迷い込むという斬新な映画である。物語を簡単に説明すると、魔法の国で暮らすジゼル(お姫様)は、王子との結婚式の日、魔女に騙されて、現代のニューヨークに送り出されてしまう。魔法の国での常識が通じずに困り果てた彼女は、現実主義の弁護士ロバートと出会う、という内容である。異世界のお姫様が巻き起こすドタバタ劇が、アニメーションと実写で描かれている。本作はその音楽より、①真実の愛のキス、②魔法の王国、アンダレーシア、③ナサニエルとピップ、④想いを伝えて+魔法にかけられて、を編集したメドレーである。

●アフリカ - 儀式と歌、宗教的典礼 -

Africa: Ceremony, Song and Ritual

ロバート・スミス

Robert W.Smith (b.1958:アメリカ)

アメリカの作曲家R. W. スミスの作品群は、1990年代後半の吹奏楽界で爆発的にヒットした。当時は新作が発表されるたびに話題となったのが懐かしい。近年の日本国内の吹奏楽界では国内の若手作曲家の新作が好まれる傾向が強いが、1990年代は欧米の吹奏楽曲に傑作が多く、これらが演奏されずに忘れ去られるのは実に勿体ない。ぜひ多くのバンドで挑戦して欲しい。

この曲は、アフリカの原始的な民族音楽に基づいた曲で、導入部とそれに続く3つの展開によって構成されている。①「太古の火」は、人間が火を生み出し、そこに棒や葉を集めて炎が高く成長する様子。やがて炎は突然消え始めて大地は暗闇に戻っていく。②「古代民謡」はガーナが起源の古いメロディ。③「シャンゴ」は雷神の名前。神を招来する人々の祈り。太鼓は夜通し響き渡り、やがて人々の踊りは熱狂的な状態となる。パワフルな名曲。1994年作曲。

●「ウルル・カタ・ジュタ」～アボリジニーの祈り 八木澤教司

*Call of the Aborigines - Uluru - Kata Tjuta**Satoshi Yagisawa (b.1975:日本)*

八木澤教司さんは市川市在住の人気作曲家で、ジョイント参加各校の顧問とも親交があり、この演奏会においては、2003年の第13回より毎年、1年バンドで八木澤作品を演奏している。海外での人気も高く、世界を飛び回る八木澤さんであるが、今回の練習期間にも多忙な仕事の合間に練習会場にお越しになり、作曲者本人より直接指導を頂くという貴重な機会を得た。

タイトルは、オーストラリア中央部に位置する国立公園の名前。その中の観光地で有名な砂漠の巨岩「エアーズロック」(ウルル)と、その巨岩を聖地として崇拝する、先住民族アボリジニーの生活を描いたドラマティックかつ感動的な作品。2016年作曲。先日出版された新作。

●武蔵

Musashi

メリロは管弦楽曲や吹奏楽曲から、映画やテレビの曲まで、幅広いジャンルの曲を手掛けており、その作風はドラマティックな展開や響きを持ったものが多い。また、メリロ作品は人生・人間といった独自の哲学に基づいて書かれたものが多い。さらには、日本に大変興味を持っており、日本をテーマにした曲が多いのも特徴である（日本語のタイトルの曲も多い）。

そこで、曲のタイトルの「武蔵」であるが、スコア表紙には大きく剣豪「宮本武蔵」の絵が描かれており、まさにその人を示している。吉川英治の小説「宮本武蔵」や、武蔵が残した剣術の奥義をまとめた兵法書「五輪書」の英訳を読んだメリロが、そこに書かれた武士道精神に深い感銘を受け、この曲が書き上げられた。海外の作曲家が音楽で描く武士道精神に注目したい。曲の難易度を示すグレードは最高難度の「6」。手強い難曲である。2003年作曲。

スティーブン・メリロ

Stephen Melillo (b.1957:アメリカ)

●ルイ・ブルジョワの賛歌による変奏曲

Variations on a Hymn by Louis Bourgeois

吹奏楽界で「スミス」と言うと、先程紹介したR. W. Smithと、このC. T. Smithの2人の作曲家が思い浮かぶ。長年吹奏楽に携わってきた方は後者の方が馴染み深いだろう。C. T. スミスは20世紀中期に活躍した作曲家で、学校で音楽教育に携わりながら、出版社では編集長に就き、自分の作品の出版に力を入れた。1987年に他界するまで、優れた吹奏楽曲を数多く手掛けた。

タイトルにあるルイ・ブルジョワは、16世紀に活躍したフランス人作曲家で、多くの聖歌を作曲・出版した人物である。この曲は、1562年に出版された詩編の中から、礼拝の最後によく歌われる「オールド・ハンドレッズ」という賛歌のメロディを使って、スミスが作曲した変奏曲である。力強い序奏に始まり、いくつかの変奏を経て、堂々とした終曲で幕を閉じる。この曲も難易度を示すグレードは最高難度の「6」。相当な難曲。頑張れ2年生。1985年出版。

クロード・スミス

Claude T. Smith (1932-1987:アメリカ)

●オセロ

Othello

吹奏楽界の巨匠、リード博士が他界したのは2005年。生涯で多くの優れた吹奏楽曲を作曲、近代吹奏楽の発展への貢献は計り知れない。リードの遺した膨大な作品のなかで、ひととき注目されるのが、16世紀後半～17世紀初めに活躍した劇作家、シェイクスピアの文学作品を題材にした作品群であろう。今回演奏するのはシェイクスピアの四大悲劇の1つ「オセロ」を描いた曲である。物語はキプロスの将軍オセロが、数々の功績を残しながら、部下の陰謀によって愛する妻デズデモーナを殺し、最後は自分も自殺するという悲劇である。1977年作曲。

アルフレッド・リード

Alfred Reed (1921-2005:アメリカ)

-
- I. 前奏曲(ベニス) … ベニスの元老院がオセロを司令官に任命。オセロの権力の強さの表現。
 - II. 朝の音楽(キプロス) … オセロとデズデモーナの部屋の窓の下で、旅の吟遊詩人が歌う朝の歌。
 - III. オセロとデズデモーナ … 情熱的かつ優しいオセロとデズデモーナの間にある愛の感情の表現。
 - IV. 廷臣たちの入場 … 激怒と嫉妬で半狂乱となったオセロのもとに、廷臣たちが訪れる。
 - V. デズデモーナの死、終曲… 部下の陰謀により妻を殺したオセロが自殺する場面。悲劇の結末。
-